

外傷時の患者は仰向けの状態が多く、一般的な撮影法では対応できない場合がある。それに加え、迅速な撮影を求められることが多い。したがって普段から撮影法を熟知しておくことは重要であり、自分で撮影した写真で異常部位を指摘できるように日頃からトレーニングしておくべきである。

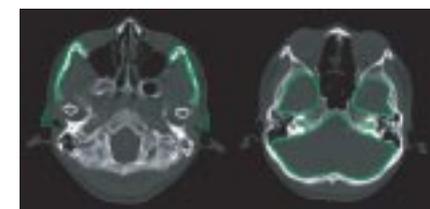
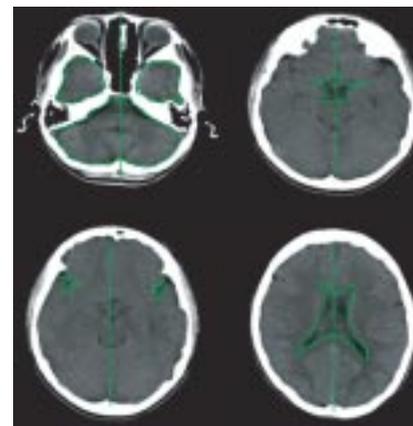
人体のなかで骨に完全に守られている脳は、最も大切な臓器のひとつである。この臓器は骨によって守られているという面もあるが、ちょっとした病変でも体に及ぼす影響は大きく、最も注意深く観察しなければならない部位である。撮影法のルール（取り決め）ができるだけ一定であったほうが、緊迫した状況下に病変を探す際、見落としなどを防ぐことができる。

頭部X線検査時のチェックポイント p76～79参照

- ☞ 適正な撮影条件にて撮影する（条件，マーク位置）
- ☞ 正面，側面：顎の先端までできるだけ投影する
- ☞ 正面：左右対称に撮影する
- ☞ 正面：眼窩内に内耳道を投影する
- ☞ 側面：前頭頭蓋骨のずれがないように撮影する
- ☞ Towne：大後頭孔を投影する
- ☞ Towne：両頬骨弓を投影する

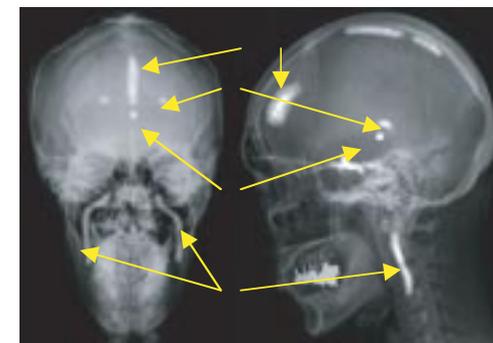
頭部CT検査時のチェックポイント

- ☞ 画像表示に間違いがないか確認する（患者情報，左右）
- ☞ 頭蓋底骨から左右対称な体位で撮影する
- ☞ 外傷時は骨条件も再構成する
- ☞ 取り決められている基準線に従って撮影する
- ☞ 疾患の大きさの測定，CT値を確認する

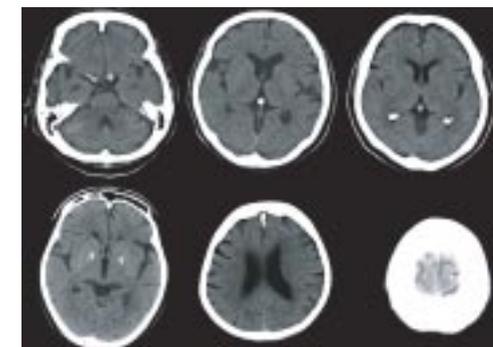


頭部X線写真，CT画像の代表的な石灰化

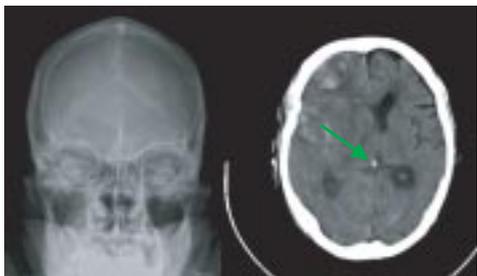
頭部X線写真，CT画像においてしばしば石灰化した部位を描出することがある。これらの石灰化は生理的な石灰化が多く病的意義はあまりないが、好発的な部位があり、それを把握することで二次的な疾患を予想する手がかりとなる。頸動脈に沿って石灰化を認めるようなら血管性病変を強く疑う。好発部位以外の場所に石灰化を認めるときは、異常な所見として注意深く観察する。



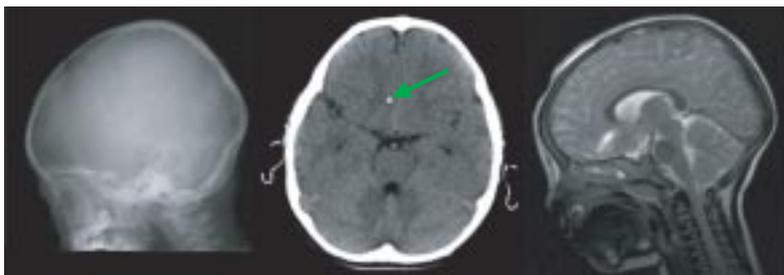
- 内頸動脈の血管壁の石灰化
- 松果体
- 脈絡叢
- 淡蒼球
- 大脳鎌
- くも膜下顆粒



症例 脳挫傷（松果体石灰化の変位） 松果体などの石灰化の変位（ ）は、脳実質の変位を示唆する所見であり、頭部X線検査は左右対称にポジショニングすることが重要である。



症例 転倒事故（小児） 箸が鼻部より刺さり頭蓋底骨片が脳実質内に残存している状態（ ）。頭蓋内石灰化好発部位の把握は、異常高濃度を見つけるカギとなる。



頭部外傷

頭部の骨折線パターン（4パターン）

線状骨折：骨折線下に血腫を伴うことが多い

開離骨折：頭蓋全体に外力が加わったときに多い

陥没骨折：局所的に大きな力が鋭に加わったときに多い

粉碎骨折：頭蓋全体に強い外力が加わったときに多く、致命的な脳挫傷を伴っていることが多い



頭部

頭部X線写真とCT画像での縫合線の走行

骨折線とよく間違えやすいX線透亮像に縫合線がある。これらの位置関係を検査ごとに把握していることで、本当の骨折線かどうか判断する材料になる。

冠状縫合：青線

矢状縫合：緑線

人字縫合：赤線

鱗状縫合：黄線

として表した。

とくに小児の場合の縫合線は複雑で、ときに骨折線と見間違えることがあるので注意を要する。

